

漫 録

福岡縣下軌道巡走記

谷 口 生



本州の西南端を彦島と九州の東北端との三つが巴形となつて作られた關門に着いたのは、夏の日ともうギラ／＼と波に反射してゐる朝の八時であつた。林立する檣、鼠色の煤煙、汽船帆船の目まぐるしい行き交ひに、有繫西方の門戸だけありと首肯される。白ペンキの船が高々と亜鉛屋根の蔭に繫がつてゐる巖柳島は、往昔華々しい仇討をした宮本武藏の武巧を偲ぶよすがもなく、煤煙と油とに薄汚れて何となく本意なささうにも見られる。

門司から鹿兒島まで九州の西側を走る二號國道の門司から小倉、八幡を経て折尾に至る間は殆ど兩側に人家が檐を駢べ、九州電氣軌道の電車が立派な複線軌道を走つてゐるし、小倉

からは近く市制を施行しようとしてゐる戸畑町へ、八幡市からも又戸畑町へ會社が支線を出してゐる。八幡戸畑間は未だ半分しか開業してゐないが近々全線開通すべく、省線鹿兒島本線に平行して居る此の電車は、現状に嫌らず更に門司黒崎間に専用軌道に依る急行電車敷設の特許権を得た、同地方一帶の發展に順應する施設として、此れが完成で一段落でせうが、門司から黒崎に至る現營業線の併用する國道の交通は、自動車等高速度のものがあまり多からぬ所爲か、電車の軌道内を他の車輛のために荒されることがあまり無いらしく軌條内の砂利敷は綺麗に敷かれ唯所々に車轍の古い跡が見えただかり、此の電車は、東京等の夫れに比して何程幸福であらう

かと思つた。

小倉市では又その市街地の南端から兵營まで二哩あまり小

重要な道路交通を負擔する府縣道上では、あまり面白くないことと首を傾げざるを得ない。

倉電氣軌道が走つてゐる。ゴミ／＼した狭い市内道路を離れ

小倉電氣軌道の終點からは更に、馬力を動力とする徳力軌

て、その電車の起點に出れば八間幅の府縣道にカラリとした

道が、企救町の徳力まで走つてゐる。延長一哩七十一鎖、玩

氣分になれるが、その道路上を走る單線軌道の架線電柱が恰

具のやうな車體と、憔悴した馬とで、歩むが如く走るが如く

も複線の場

合の中央柱

式に道路の

眞中に立

てられてゐ

るのが、珍

らしくも奇

怪なことだ

と思つた、

何でも將來

複線軌道に

する豫定が

あるためだ

との事であ

るが、此の

◎衆議院豫算委員會速記録より

大口喜六君

道路會議廢止問題——大口代議士の質問

本年の四月の初でありましたが、時の政府は——今の内閣の出来ない前であり、清浦内閣は色々な調査會などを廢されたのであります。是は官報に於て告示されて居りますが、其中に道路會議と云ふものも廢されたのであります。之に對して私は非常な疑問を持つて居る道路會議の設けられたのは御承知の如く、大正八年十一月五日に勅令第四百十六號であります。道路法の國道路線の認定又は變更若し廢止は勅令の定むる所に依て道路會議に之を諮問すべしと云ふ特殊の勅令が出て居りますが、之に依つて出來た官制であると思ひますが、此道路法の出來ます時の衆議院は如何であつたかと申しますと、丁度今議員をして居らる、廣岡宇一郎君が委員長であられた、吾々も其委員の一人である、時の内務大臣は床次竹二郎君であられた、屢々道路法の委員會に於きまして議論に相成りまして、是迄は法律上の見解が色々あつた如何なる細い小さい道路までも、委く國家の營造物であると云ふ議論があり之に對して國道は勿論國家の營造物であるが、里道の如きは市町村の營造物であると云ふ議論があつて、行政裁判所の問題となつて居つた、有ゆる道路を國の物であるとされる結果、吾々は之に對して屢々疑を持つて、國家の營造物に道路がなつても、市道町村道と云ふやうなものは費用を市町村に負はしめる、縣道は府縣に負はしめる、國道も矢張或る部分は府縣に負はしめる、それであるから道路と云ふものの路線を認定し、或は變更廢止をするには、關係の深い會議に諮問をしなければならずと云ふことを唱へて、時の政府は之を容れたのであります。是は其當時の委員會の速記録を見ますと、委員長が明瞭に此事を言はれて、床次内務大臣は委員會に出席して——大正八年二月二十二日の道路法の委員會であります、それに出られて明瞭に答へて居られます、政府は諸君の言はれる意思

ホト／＼と進む恰好はたしかに漫畫である。が此れで徳力以南の山地部から小倉の町の達する交通機關として存在してゐるから大したものだ、但し、航路の比較的自由的な乗合馬車と競争して立つてゐる

るため、成續あまり芳しくないとのことで、お氣の毒である。

北九州での企業総元締たる八幡市、若松市、戸畑町は、

有繫に煤煙濛々、見てゐても威勢がよいが、

門司の淺野セメント工場の降灰問題がやかましくなつた如く、此處でも早晚、煤煙のために苦情を持ち出すだらうと思はれる。

遠賀郡黒崎町から折尾町までの國道は目下改築工事中であるが、此の工事に就ては本誌の四月號に澁江福岡縣土木課長

の附近數條の鐵道枝線は、石炭運輸を主として旅客運輸を從

を容れて其様に致しませうと答へた、せうと云ふ疑の言葉があるが、致しませう、と答へられた、此内務大臣を吾々は信じて其時に法律を其儘通した、それを内務大臣が言はれぬならば、其法律の文章を改正して、道路會議を造らせることを箇條に加へようと主張した所が、内務大臣が別に勅令を出すから、此法案は此儘通して貰ひたいと云ふ内談があり、吾々は其大臣の言葉を信じて此法案を通した、是は明瞭であります、所でそれに依つて出来た所の道路會議でありますが故に、此道路會議を廢してしまつたならば、將來此國道の路線の認定、又は變更廢止を何に御諮問になるでございませうか政府が勝手に之をやりますが、政府が勝手にやること云ふことが新聞に出て居つたがそれは道路法の制定の趣旨に違ふのであります、之を政府が更迭したからと云つてどん／＼變へると云ふことは、吾々は何にして政府を信用するのであるか、政府と云ふものは前の政府が國民に誓つた事はは何所迄も遂行される、之を遂行を變へるときには、矢張國民の承認を得ることはならなければ宜しくない、是ではさう云ふ積りでありますまいが、政府が吾々を引掛けた形になります、必ず將來は諮問をするからと云つて通させて置いて斯う云ふ事を致すことは、甚だ其時の政府が宜しくないと思ふ、所が今の内閣は果して之に對して如何なる所見を持つて居られるか承つて置きたい。

○湯淺政府委員

只今の御質問に御答を致しますが、道路法制定當時の政府當局の言明致しました事は、只今大口君の御尋通りであります、それに基きまして道路會議に諮問を致すと云ふ條項であり道路會議が設けられて居ることになつて居ります、前内閣の時に種々と諮問機關等を廢止されると云ふことで、ツイ之が廢止になつたと云ふことでありまして、此事が如何なる事情でございまして、唯々多くの諮問機關を廢止すると云ふ全般の空氣が左様な状態になつた、さう云ふことで只今御尋の通りになつたと考へます、是は大口君の御尋の通り、道路法制定當時の政府の言明もございしますから、之に付ては篤と考慮を致したいと考へます。

折尾驛から南に分岐して八哩、遠賀川河畔の直方町は、附近多數の炭礦中心地としてかなり賑やかな所である。一體此計畫を立ててゐられる、調

としてゐるらしく、石炭運輸用の車輛がドツシリしてゐるに
もかゝらず、客車は甚だお粗末で、此の邊では、石炭様で
あるに違ひない。直方町から鞍手郡若宮村の福丸までは、土
地柄蒸汽動力の鞍手軌道がある、府縣道併用部分の會社負擔
部分の道路は草が茫茫としてゐたり、鋪裝が不陸のものがあ
つたりして道路の有効幅員が大分狹窄せられてゐた、此の軌
道會社は兼業として乗合自動車もやつてゐる上から見ても、
もう少し道路を大切に扱つて貰ひたいなどと我儘を考へさせ
られたりした。

鹿児島本線の福岡停車場の前から、津屋崎町まで三哩弱博
多灣鐵道汽船株式會社の經營に係る馬力軌道が、前に書いた
徳力軌道のそれの如く漫畫然と走つてゐるが線路の經過する
中程の所に宮地嶽神社があるためその參詣客と、津屋崎、福
間間の連絡のために此漫畫子なかく貢獻少からず、福岡
驛、宮地嶽神社間の連絡を主として現れた乗合自動車の數臺
と對立して氣を吐いてゐる。

津屋崎海岸は風光も一寸よく、海水浴場としての設備も近
年出來たが、玄海灘からモロに來る西風が、時々磯馴松の林
を超へて道路にまで打上げる程なのが疵である。祭神と社格
とを一寸聞き洩したが、宮地嶽神社はお金の儲かる神様ださ

うで、遠くは京阪地方からも投機商人のお詣りが多く、祈念
して儲かつた額の半分を奉納するんださうである。お詣りに
は鐵製木柄の三又の鉾を賽する、信州の諏訪神社は武運長久
の祈り神様で、矢張り鐵製の鉾を奉納するが、それは又なし
の一本であるのに此處のものは三又である。武運長久は一筋
に祈つたら足り、金儲けは二つにも三つにもと慾張つたもの
かと他所事ながら首を傾げさせる。

福岡市は九州の福岡市であり、日本の福岡市である。博多
織、博多人形の名も古いが今は築港に、都市計畫に、交通網
の整正に、著々として新生面を開きつつある。天恵の地物に
恵まれ豊饒なる地方物資を持つ福岡市の當然の趨勢として一
日も早く大福岡市の現出せられむことを祈つて止まない。そ
の福岡市交通を掌る電氣軌道は、東西に長い市形に隨う一線
とその中點から博多驛に分岐する線との卜の字形の東邦電力
株式會社の軌道と、市の中心部と全周する歪隋圓形の九州水
力電氣株式會社の軌道とが重つて敷設されてゐる。兩會社は
聯帶運輸をやらない。不馴れの旅の者の面喰ふことはまづ忍
ぶとして、毎日利用してゐる市民が、兩線に跨つて目的地に
達したい時など厄介だらうと思はれる。何とかならないもの
であらうか。相互に自分の繩張りを固持してゐることは、お

互の乗客を失ひつつあるやうなものであり市民に對しては不親切である。

東邦電力株式會社の電車の西端西新町からは、九州水力電氣株式會社が市外線として糸島郡の加布里村まで軌道を運轉してゐる。西新町から姪ノ濱までが電車、姪ノ濱から加布里までは蒸氣軌道であるが、近く全線電車にする計畫だと言ふ姪ノ濱今宿間は、門司小倉間と共に此の附近での海の景色の良く見える所である。前者のは六連島を置く響灘を遠景とし彦島海峡を近景とする出船入船の煤煙を織り交せた現代式の風光に對して、これは自然の儘の岩のたゞすまい、砂の色、海の光何れも捨て難い趣が、松林から隠見することによつて一層引立つて見え、行路者の眼を喜ばすに充分である。

福岡から二日市を経て久留米市に至る二十三哩餘全線新設軌道による九州鐵道株式會社の電車は、最近開業したものだけあつて、車輛と言ひ停留場その他の諸設備と言ひ立派なもので斯界の先覺者京阪地方のそれに比して決して遜色がない開業日尚淺いからその營業成績を知るよしもないが、所期の効果を擧げるものと思はれる。二日市は福岡、久留米兩都市間の中繼地で、太宰府町、甘木町への分岐點として、又附近の物資の集散地、繭の市場も大規模に立ち且つ西に武藏溫泉

を控へた重要な地である。武藏溫泉は、此の附近唯一の溫泉として地方に名を博してゐるが、湯治客よりも、遊びのため浴客が多いらしい。

二日市から太宰府町までは殆ど府縣道を併用する蒸氣を動力とする太宰府軌道がある。官幣中社太宰府神社が此の地に流謫された菅原道真公を祀つた物であることは、その境内の飛梅と共に人口に膾炙する所であるが、此所の名物の焼餅の由來は、此の神社に若い一對が參詣するとイケないと言ひ傳へられてゐることと共に、祭神の尊嚴を甚だしく冒瀆するものである。その焼餅なるものは東京の今川焼に似たものを側として中に又餡を挿んで喰べるもので、ツマリ皮の復々線の中に餡を三線挿むアンコロサンドウキツチである。社殿の裏庭の茶店においしさんと申す美人様が居られる、太宰府の神社と共に有名なものなさうで、前前内閣の時など閣議の席でその美人の餘談が上つたとか上らぬとかの噂である。朝廷に堂々と君臣の大道を説かれた道真公の靈が地下に慟哭せられるであらう。太宰府で今一つ有名なものは、曩に内務省で史蹟名勝天然記念物の指定をした筑紫都督府(都府樓)の跡である、今は唯礎石と瓦を残してゐるのみであるが、礎石の配置、形狀、大さから見て、嗚かし雄大なものであつたらうと思は

れる。又都督府跡の右手丘陵は、天智天皇が我國で初めて漏刻を用ゐて時を報じ給ふた時報臺の跡である。夏草の茂みに蛇が蟠り、附近の耕地に農夫が悠々と鋤を動かしてゐる今日、誰か今昔の感に打たれないでゐられよう。

筑後川流域の平原地帯は、朝倉郡の甘木町、浮羽郡の田主丸町、久留米市を中心として福岡縣内でも最も軌道の發達した所である。即ち前に述べた二日市から甘木を経て把木に達する朝倉軌道、浮羽郡田主丸町から甘木を経て秋月に達する兩筑軌道、佐賀縣鳥栖町から福岡縣三井郡小郡に入り甘木に達する中央軌道（目下は小郡甘木間を開業してゐる）久留米から甘木町に達する九州鐵道（舊三井電氣）軌道、それに久留米から筑後川左岸に沿ひ大分縣日田町まで遡る筑後軌道等で、九州鐵道の電車を除く他のものは何れも大部分府縣道を併用した蒸汽軌道である。此の附近の府縣道は筑後川平原地の幹線をなす重要なものであるけれども、軌道内の鋪裝の不完全、轉轍器や轍又の施設箇所路面の不陸、給水スタンドを道路内に立てたりしてゐるために道路の効果を阻害してゐるものが多いのが眼に著く。高速度車輛の交通が目を逐うて盛になる今日、危険防止のためにも、交通能率の増嵩のためにも、軌道經營者並に縣當局に御一考を煩したい。

筑後軌道の福岡大分縣界から日田まで筑後川に接して遡る區間はなか／＼景色が良い、岩を嚙む激流、木蔭の碧潭その間に丈餘の小舟に網代笠阿彌陀に冠つた鮎釣りは正に一幅の繪である。日田町は筑後川の上流たる玖珠川、大山川、高瀬川の合流點にある山間の水郷で、豊後の主都である。清冽の水、趣のある水と土石との配置それに美味しい鮎が夏の旅行者に心持よい慰安を與へるに充分である。

久留米から南八女郡の福島町に至る七哩餘は九州鐵道（舊三井電氣）の電車が國道を併用して敷設されてゐる。福島からは東は黒木まで、西は鹿兒島本線羽犬塚停車場まで合計十哩五十四鎖に南筑軌道が府縣道を併用して走つてゐる。此の軌道は石油機關車で牽引するもので日本唯一、日外陸軍の鐵道聯隊からも見學に來た相であるが、ボン／＼と言ふ排氣管の音騒々しく白い煙を輪に吐きつつガタガタと進む光景は奇抜である。汽船に對して汽車が陸蒸汽であつた昔ならば、これは發動機船に對して陸ボツボである……と惡口は言つても此の軌道は矢部川の水源地帯を擁して地方運輸に相當貢獻しつつある。

羽犬塚停車場から西、筑後川の河港大川町まで蒸汽を動力とする三藩軌道があり、大川町の河岸若津からは又南東柳河

町まで大川鐵道の軌道(蒸汽)が達し、柳河町から鹿兒島本線の矢部川停車場までは柳河軌道の蒸汽列車が敷設せられて此の近傍の交通循環路をなしてゐる。柳河町近傍の鰯は遠く京阪地方までも送り出されるとか、東京の柳川なべが、此處の地名から起つたのか何うか穿鑿するひまもなかつたけれども其處まで珍重せられる鰯も鰻と同様に鰯上りをやるものだ阿々。

僅か一週間で走り廻つた福岡縣内の現在開業軌道は、以上

十八會社の經營する延長二百六十一哩に上り、尙特許權を得てゐるものも可成りの延長を有し軌道の發達してゐることは全國第一位である。しかもそれが或る二三のものを除いては旅客、貨物の運輸に、道路交通の特殊機關として皆相當の効果を擧げつつある。軌道の興廢、振不振は其の地方の消長を卜するバロメーターであり且つ道路の改良と共に地方開發のピオニアである。私は以上の軌道を巡走して、層一層福岡縣の軌道否全国各地の軌道が道路の改良と共に隨所に振興せられむことを切望して止まない。

瀬田の唐橋から犀川大橋へ

枝 川 生

一 はしがき

かねて工事中であつた、二號國道滋賀縣瀬田、石山兩村立會瀬田川に架す瀬田橋と、十二號國道石川縣金澤市内犀川に架す犀川大橋の兩橋梁の架換其の功を終へ、前者は七月八日、後者は七月十日の各吉辰を卜し、夫れく盛大な竣功式が擧

行せられた。一は天下の名橋として夙に人口に膾炙するもの一は北越有數の大橋として是亦著名のものである。本稿は此の二大工事の竣工式に、内務大臣代理として臨席せられた丹羽内務書記官、牧野内務技師、道路改良會の都筑專任幹事と共に同式典に參列した折の旅日記の一節である。